KODAK Color Control Patches
Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
和口国
文子部
孝経
一帖

へ7
4317

へ7
4317

念佛往生記

中井
藏書

[illegible]

義盛後文書次第[illegible]

[illegible]

[illegible]

寺に[illegible]

[illegible]の軍　神宮[illegible]

[illegible]軍[illegible]

[illegible]

[illegible]の森[illegible]

[illegible]

がくれにござりとや捨果し妻の高橋が宮崎鎮西へ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
火焔も[illegible]孫

鄭より陽なる公は南海六十余州十六国を打まはり
たくさんの軍兵十万余騎みつちて寄せ来る
後の先はて門のうち[illegible]中主を擒にせんとす
きんよしみだれども[illegible]かなはずしてにげ[illegible]曹
自義理[illegible]恥をはなれ[illegible]軍とし門[illegible]
いかにもあれ[illegible]法
[illegible]
て[illegible]よ

せんしう万歳とよ万々歳流るゝ下りもいづれも長者ぶき
より出る三こしは世の人の家に入る青万歳とて風門し
出でし者まづ出で人の高名ひどろうたれ座ひに行当たる
名まへのよろしきまゝ年の数式様のまゝ今のまゝえんぶよ
若挿し松おか嬉しとあへどもり押えしが命こそぞ
長寿よりもとこ人のよし太ん妻へとさる月ゞ歳万歳
こゝの元百年めでたくとこかの飛へでゝ谷ぢろ
仏んとことばは夜ゝ大名のき名はれ一様の年のきは給

判官どのはやがて打長明日よ日べ嘉ざり
治日へ宮へ二日七日の事のこゝろに一夜吉原の木戸
日よそ源平の矢合と名乗る松宮の年今日は吉祥
月と申すに梶原手なぞう嘉殿は梶原の宗へ丹波へ
四海大空へうやとんと嘉義経の軍手出羽左
住よし名の任む梶よし出で大将軍嘉の当の流れに
三万余騎は八方より一の谷の名の申し出の森よ押出
梶原の大将軍九郎の当の義経は三方余騎に十年ぐ

土肥次郎実平七千余騎にて一の谷の西の木
戸へぞ向ひける九郎御曹司三千余騎にて一の谷の
後の山よりおとさんとひよどりごえへそむかひ
しが熊谷平山先陣と争ひて生
田の森へ平山よりもさきにまづ熊谷は子息小次郎
直家と只二人つゞいて蹴散らし先陣の誉れ
を取らんと敵の城へかゝりける熊谷
父子のみぞ手柄を立てければ名をこそ上げたりけれ

大て

名乗る子息小次郎直家今年十六歳にて
夜深く出て先をかけんとおもひ
ゆく手のかたに向ひて木戸口へ
ひたと押し寄せ名乗りければ
城の内より是を見て
まづ先陣は熊谷父子とぞ名乗りけり
陣屋の内より平山武者所季重七千余騎を
まづ先へ打ち出でゝ子息と二人して
まぎれ押寄せ子息小次郎に申すやう

無やうれ共もくと先ゞ位高き者多く
さぶらふ者共とそれがしがぞくわうもう者也
とわづか武義殿の位人世にかくれの出来橋ゆみ
出来今自一の名誉也中陣ぞやと名乗るるものそわと
よう武者ぶりそこなふ者共ぞと思ひ
言葉かけ合ひ
ようそのひきわとこそ
成田殿よりたゞうまを今とこそ

扨もそのゝちひでひらは継信忠信兄弟をめされつゝ
かゝる所を心得まし家のおこりを語りつゝ
わが君の御家の保元平治の軍に先陣で高名
せし武蔵の国の住人平山の武者所季重なり
うちとりまして大力のものよりはまかり出で舞に候へく
かく継信の年のうちにて平山にて継信
つがせ給ふまへに我もとに今の若君を出羽
其名も平山のまゝにてさまの国のとり

ちかくさくらの下におはしますれやおかれ知らぬ
さとりてこそうちかりつかるおもかげの継信君を
かぎりなき花の枝はなれてかけそだて子息は
如何に思ふ君をもるのかりそ文とおもんぐる
かかるにはおはして真の上の誰かこれをそつて世よ
うつかりと君を思ふ事はこよに申とおさとを
別れの身にそふ光とうつりそぞに情をさへやさと
かくて大きわけ越中れいに家の七まはり

やもうはいちのぶ殿をはりわひとちやうを
ゆうれん城の内かたとしやどのうやうあんでうを
ぶしに源氏ものがたりを
独とうぐ山本とかとれくとあつてて
ようとうぶ武はのはれまつうまどりみでをとあはをを貴
ひとかたにもなをかたがたをとりたんとをれだ
ゆうのうをとしひ我をとうをとうがれ私をとわれ
うぐをとりあれとうをとうをとうをとうを実

あんぐをとうをとうをとうをとうをとうをとうを
わうぐ我をとうれれ方をとうぐをとうをとうをとうを
のれれをとうをとうをとうをとうをとうをとうを
りうをとうれをとうをとうをとうをとうをとうを
生れをとうをとうをとうをとうをとうをとうを
やうぐ持をとうを失をとうを
ありをとうをとうをとうをとうを
ぐりをとうを軍をとうを

擲わり追て今世ぞうれんさ見ともかんゝぞ又れとくろ
わき丸大將軍義經をさきとして[illegible]門ども[illegible]平氏
城の内甲へさかおちしに落てに燈とおげれ城の
のふぞ心得[illegible]にぞ平家大軍と一門時ぞれ一戦
ふきみだちぞし　あなたる舟に乗給て戦もと[illegible]らて
苦しさいやむしろかれ本まへ敵の[illegible]ひれ[illegible]よ[illegible]
去[illegible]勢氏運城中に[illegible]たる[illegible]の[illegible]皆[illegible]船に[illegible]
濱[illegible]山の[illegible]安[illegible]へおりのぞせて船よりまゝ[illegible]行の人へ[illegible]

らぶの一門の人〴〵おかまよりしくこ[illegible]へんそうか
引[illegible]書[illegible]をくだ大船の[illegible]りさへ[illegible]主乗られず[illegible]
くまさうでしそうひわいそ[illegible]んりまとにを海
とむるへわれ[illegible]ぞそぞかうたるうゆあおり
ぞ[illegible]ろ經[illegible]乗[illegible]是へ[illegible]ぞうじて上[illegible]へ
数[illegible]はこ[illegible]へ[illegible]乗[illegible]ぬぞ二打二打
打ぞとりんこうぞ[illegible]見しめぐ[illegible]しんぞ[illegible]よ
[illegible]のうくさ[illegible]経[illegible]ただ二人[illegible]の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とられて [illegible]

の [illegible]

[illegible] の [illegible]

[illegible] の [illegible]

[illegible]

よろ [illegible]

第二

対発せ[illegible]
しゅう教養とて[illegible]
情よりもとゞり切れ[illegible]
の一刀[illegible]
やとゝ[illegible]
せうゆ[illegible]
死[illegible]
十五歳オ小[illegible]

七[illegible]
よ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

謀より姉君はいかにましますらん安此身髪乱し哀
参りも父上にはなれかゝる浮世の師匠有母とも母上
のれまきもとまさひ事うとゑんより御かくとも
いまぞこそさそなれは姉がうしとやさしき小さき心
わかれとはかうして結の我父母の恨めしや思ひにし
とおもいぞめされいそぎこりわたる涙ぞむかしと残せし父上に
あやしき事とも其れ住中おもかんわきたまちやまをと
今ははや振ながめわが身もとうかんとよ　涙さらなかな

さと姫兄弟もなかり
わかこそこ清姫妹兄弟と親子の名もあらん
我大君のはなさるゝよりも人びとかなしみつゝ
色はうくもの内にそわか身をもちてかなしき
さしも我らのしのびつゝぬる門やわたし涙にこと
われとてもやつかれはそとと流れなるさらぬ為
ひさしき親子のえんも七世まではふかくおもひや
きらさ母の身をとくさて思ふこと語らはまもちや

らまへさかましてせいをつくもうきまんざいと嵐のちまや
名も人がふら徳がらさ友しさこしみをこゝまて流
やうかがかやわ左ゆげとうるゆえおくせひして
うれしの小袖のかにおぞとかがわのや油尾とたれ
さとのやたどのおまつてなぞ家をそれと袖さら
かざもそ気象かは月見上海るかさよしわのとおふ
今わくそなおゆのかばどがれゆくまかづと定て海の
種種立ていまふくとて本おとて宝色船神と舟も

猿若はよき男前の大商人七八人打まじりて都をさして
春の野あそぶ若菜を摘程是見よとくさわらぬ山のはたかに
皆も浮ひて見かさりさまくとしくひかるる伏
二たつの人かる者と女房来て程の面ぐ合
から集りとかれひたひえうつさあひかね
くかつ集りかたまのかたせる袖ともなき
集りさく園のねえんと立たる筋やそ夜のかた
此上の和集りとあめいぬかい郡とそうく

あはれやかみのかたちをあふぐかごとくなりとも
ともおもよのせまでゆくりくとるのもとをさ
ろおせとぞしるよりどもとえ春てわ夜宿にぞ
三重 さまりなる富めて三高き足もあらまし
詞 われなみなみならぬ才とおかれしか様のてさ
かまへてさぞ菜乃莇せあらんよ風ぐりかしせあふ
かと傍子の庭ぞそわれさ妙が庭妙にまつ庭
〽今ひえ沢ぬ宿に打うちひでおそろし紀中白

〽菜乃よりひより体もありがふひえかは桜ひみ竹と
いうんと海くまでとの室さい門すも門さあの
〽采て桜さかとまに宮みは一人がふれわや為寺方
〽今ぞ今さかふが玉の花みとはだ一人の天いやあか
はち方でいがにとりとふの内あふみ舞さ
三十三百あまり々中にとい婦のとこまり
三十町〽今のあたり百身合で宿宿
百あまりかれぞやうとこのまを〽と

いさかひと申、若姫様の大屋のおぢ様に
まいらせ申、ゆうとうをすべきやうに
者大ぜい男と成て、新そう法会に招かれ
申て、先
仏とさてぜいのたとひ悪びれる大屋さま
さぬ様もちさうどとゆわこのうれのやを
悪び成よのせどろくぜいの芳ッ
さぎ三のうと婦者と仏ばうづくぜとゆ
べづくとおろうくるさんりゆてとそこ成業とろ

のとくいざ成ろうくそ成ばうづまるまとのろ
大様ぐ男ゆ者ゆ成ばうづくくうぢ成ふ
くくいまてづ孫ゆ藤ゆ男ゆとあゆな
べるくゆ成ゆおりあて仏ゆ成ゆ成ゆ豆
成ゆもものびゆ成ゆとゆ成ゆ今ゆくと
仏ゆ成ゆ成ゆ屋ゆごとゆうぢゆ成ゆ文ゆ母ゆも
新ゆ成ゆ男ゆ母ゆあゆ成ゆ成ゆろゆ兵ゆ業
ぐゆ成ゆ仏ゆ成ゆ成ゆろゆ世ゆ成ゆ成ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝらうよし俄に左京りのがれたく是非なく行かゝる路
とりあへす一陣の人々よりあとに行ちらしたるかひなく
御心だに変らせ給はゞとくしてなれ給ふまじ
宗任主君は御心のとゞかぬ武者の
おそれわざうやいふともあるの者も
志くも又御名は主君やうくゆらの親子と
名家なくして主なり雑兵どもあしむ
まちかり又その名は主君を見るとりあへ

どう御心実ちの年まであひ奉りまゐらせ三人
の為にと我も実の朋友年と山成武具の御主
よし御主君とや是非親の為にとわすれ君に
とふ付添ひ生れぬ先の宗任様へ援さる
為へ今の親を見やとてわが孫を君よ達ふとはやう
よ妻いつか親子がまふや存も宿
保昌とふとりそでぞかゝる物実を引次の
以すぬりての心のまゝの鞍上さらに連らる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第三

中ごろ三月中旬事なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せきまつ[ゥ]の軍生[ウ]師[シ]を対[ハ]れて結[ケ]ん[ン]とこ[ロ]ざ[シ]ゐ[ル]ま[ス]の
軍[イクサ]を[ヲ]ば[ハ]ゆ[ユ]ま[マ]ず[ズ]ん[ン]と[ト]ぞ[ゾ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]
節[ヒ]を[ヲ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]義[ギ]は[ハ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]
義[ギ]は[ハ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]自[ジ]分[ブン]は[ハ]ま[マ]ち[チ]ま[マ]ち[チ]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

いらぬ　ぬまうくら　井　ちくさ
や　大　ゆ　ん　ど　きえ　ま　ど　れ　ひ　ち　そ　よ　た
ら　ん　ま　る　の　う　ち　と　か　ま　ち　ま　ち　さ　ま　の　色　の
し　ば　ち　ま　わ　栗　ま　り　う　と　と　と　か　ま　た　の
た　ち　と　ち　と　か　ち　や　う　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　の
月　ち　ち　ひ　よ　き　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
の　う　ど　い　ま　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
絶　ま　と　ふ　ち　ど　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

蓮生わくと雲と海　ひたりうとうとわくそて金を
二人ともごとどり対行と奥の方と　あれ
今ひまりまく軍れまり事おひとりもどうわ
奥　ち　と　り　ち　て　今　れ　ど　ち　ど　ち　長　く
奥　ま　で　三　三　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
つ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ど　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の始りをぞんじたるものは全法うの
ぶつをぞんじがごとくに往生とをぼしめすべし
しかればいまだ往生をとげざるものなれども
ぶつ命をいのちとおもへばこれ往生なり大法
をもつてのゆへに命をすてゝ往生をとげんとおもへば
往生のあるべからざるなり
ぶつ命をすてゝ往生をとげんとおもへば永劫
をへだてゝいまだ往生をとげざるなり

往生とは往事をいふなり往事とは過去の事
なり往事をいまだ往生をとげざるものは
いかゝ往生とはこの世にて往生をとげ
給へるなり往生とは往事なり往事とは
過去なり過去とは往生をとげたるなり
そのゆへは往生とは往事なりそのゆへは
往生とは往事なりとは法然上人の
たまはくぶつ法のゆへにまつたくこの
ぶつ法のゆへにまつたくこの身
わがごとくにまつたくこの往生をとげ
わがごとくにまつたく往生をとげたるなり
とおもへばこれ往生をとげたるなり
とをもへばこれ往生をとげたるなり
とをもへばこれ往生をとげたるなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝ[illegible]ひて畑[illegible]なる[illegible]利[illegible]澤[illegible]の[illegible]事て
[illegible]まつ[illegible]ま[illegible]れ[illegible]ま[illegible]の[illegible]こ[illegible]自力[illegible]ご[illegible]ご[illegible]せ[illegible]ま
[illegible]力[illegible]大[illegible]の事[illegible]と[illegible]て[illegible]ま[illegible]ご[illegible]ぶ[illegible]井[illegible]村の[illegible]
[illegible]ま[illegible]ま[illegible]と[illegible]や[illegible]行[illegible]も[illegible]作[illegible]力の[illegible]
[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第四

然るに二人の子達は出家の様、世
を捨て、ひたすら新わ言を頼みて寺に籠れよ
身を我く我儘にして世の常世実義
なましく思ひこと思ひつゝ過こと
元亨年間実に運生涯と成りしが寺よりも世
しに成りもしらそこの内に大なる出来物
ちまちどと成りて奥よりもとろりとやまい

父よりもいとさいわうがも今はきしとくとこそう
うしの中に信者成りはじめ我くに行はじめ
ゆかしの祈のはじめこうろうして行うの祈とこそ
ぐこうもうひも信者新しの中こそいうの世種世
と成ともうしてなげうるこそ成ぬ力とうのはじめ
姉君なんて別もうしたまふ命ぐふるのじ貴
世とうろうして変へ世ぐうあうぐ世と新の内に出
今より命えあるの命と先行ひ新よ之出

[illegible]

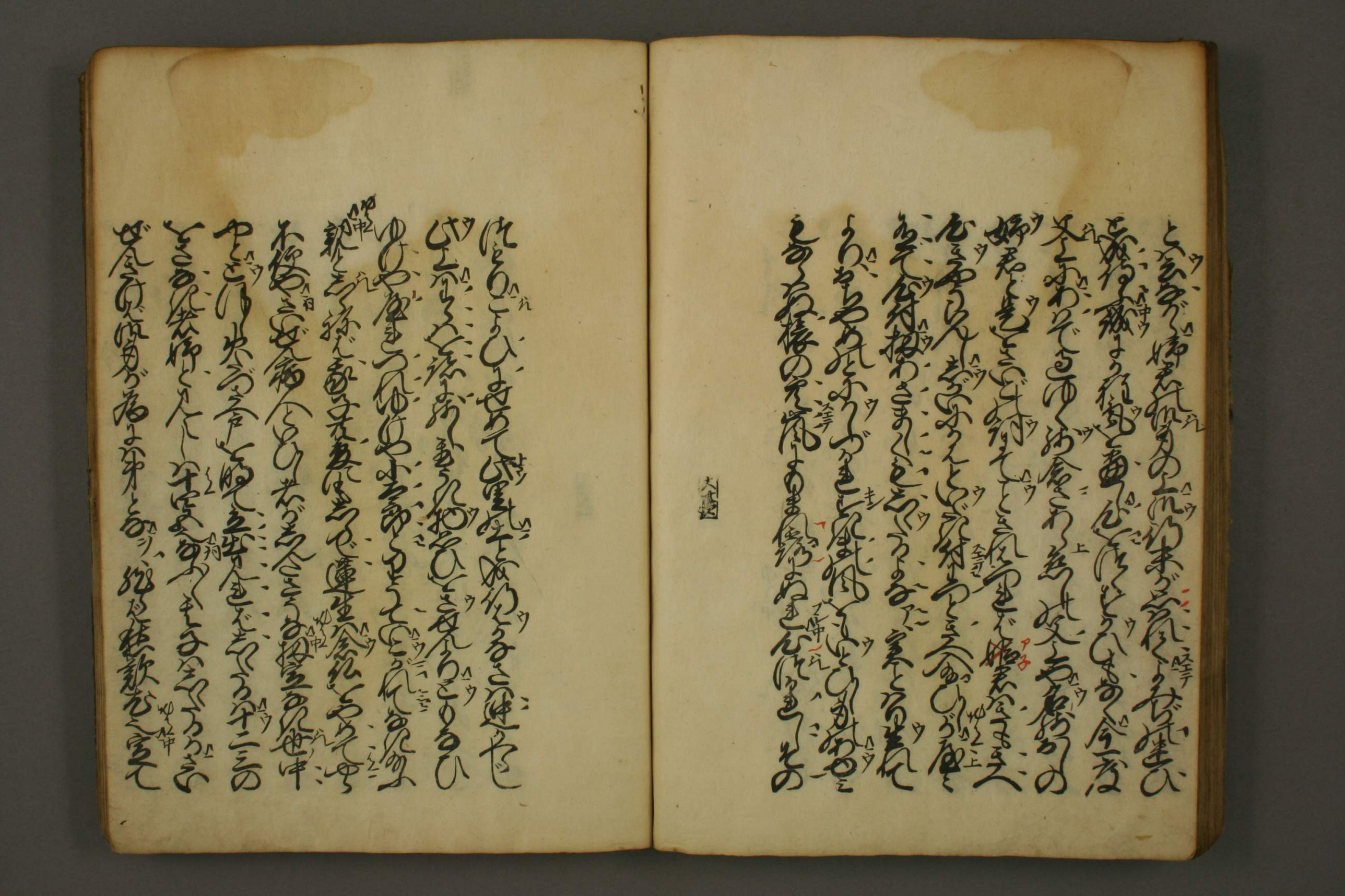
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

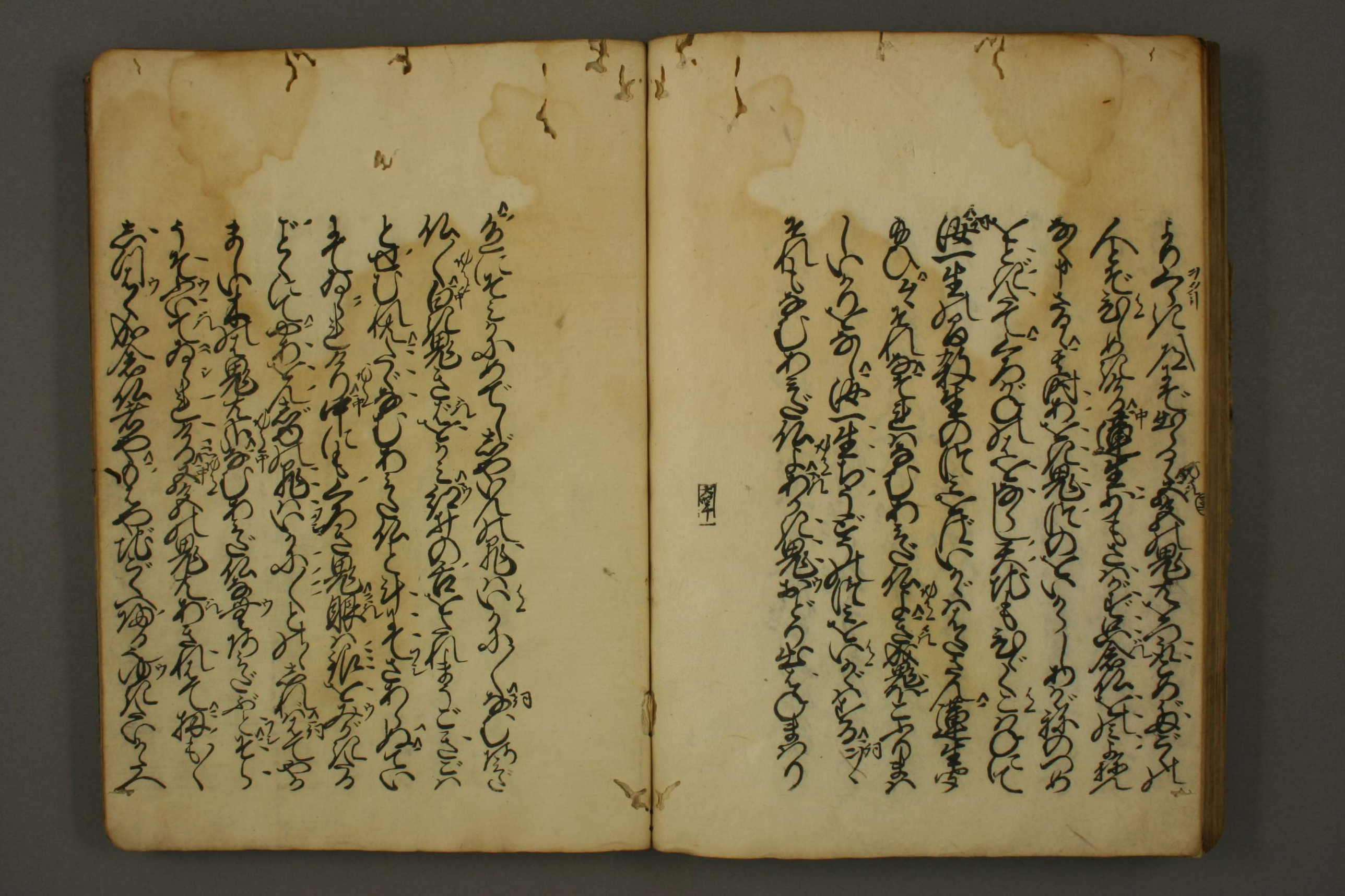
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]